

富士市を再発見!

古墳

め

ぐ

り



実円寺西第1号墳

市内では、約六百基もの古墳が発見されていることを、ご存じですか？
これらの古墳がつくられたのは、四世紀末ごろから八世紀にかけて、富士市の周辺が「スルガ（珠流河）の国」と呼ばれていたころのことです。近年、多くの発掘調査が行われ、その時代の人々の生活が明らかになりつつあります。あなたも、古墳を通して、富士市の昔に思いをはせてみませんか？



① 庚申塚古墳



(県指定史跡)

双方中方墳(国内で3基のみ)

前 この古墳は、天皇の食をつかさどる「膳氏」という一族にかかわりのある人物のお墓ではないかという説があります。「柏原」の地名は、膳氏に由来するのではないとも言われています。

また、地名に「塚」とつく場所には、古墳があったと考えられています。

古墳止部



この下に、古墳時代の権力者が眠っているのです。

今回は、まちかどネットワークの小池さんと一緒に、市内4か所の古墳と、埋蔵文化財調査室を見学しました。

市内の古墳は、多くが私有地となっているため、無断で立ち入ったり、荒らすことのないよう見学しましょう。

いざ、古墳めぐりに出発!

今回の見学コース

- ① 庚申塚古墳 (東柏原新田)
- ② 浅間古墳 (増川)
- ③ 大坂上古墳 (比奈)
- ④ 実円寺西第1号墳 (三ツ沢)
- ⑤ 富士市埋蔵文化財調査室

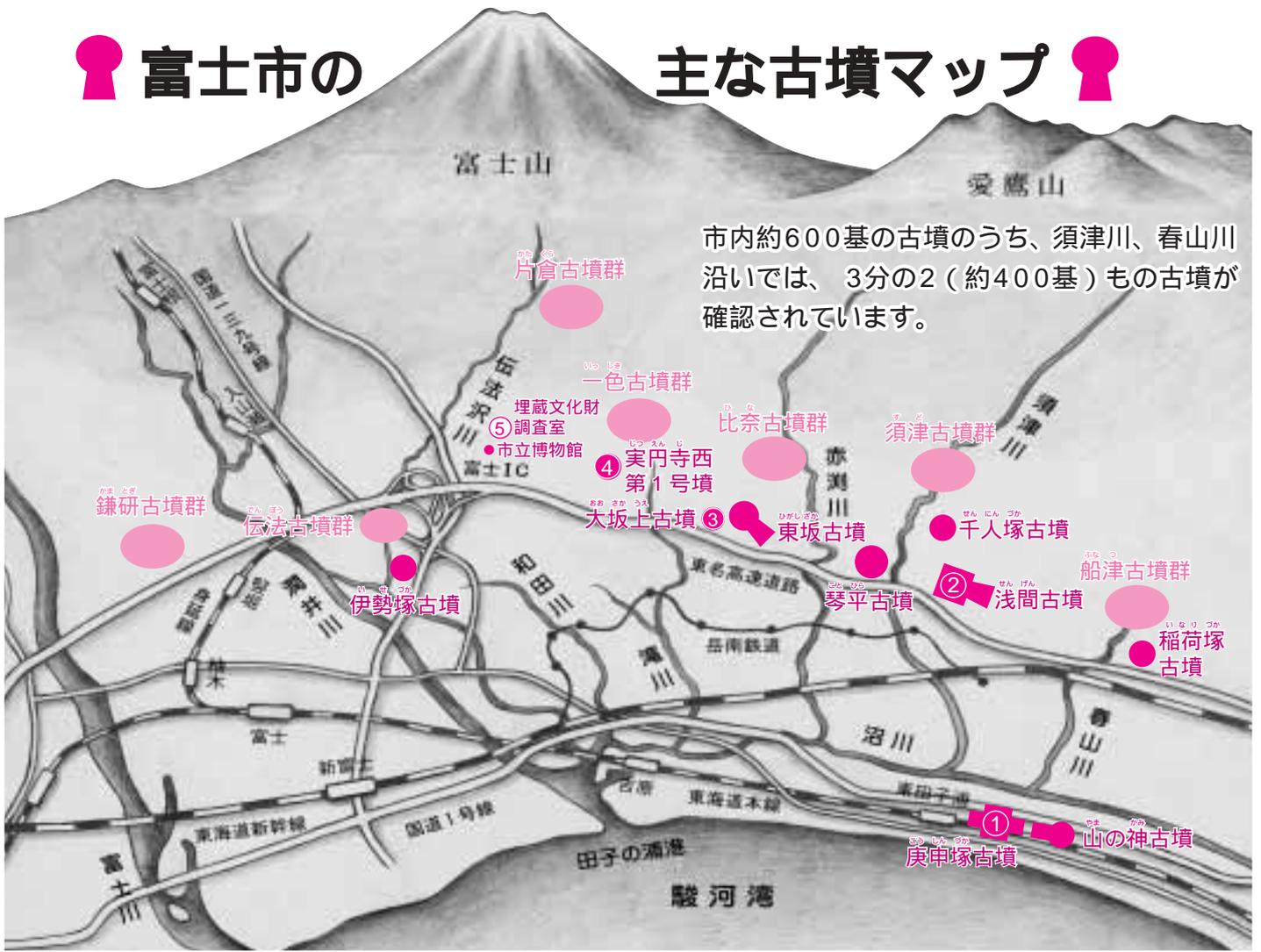


案内役
前田 勝己 主査
(文化振興課)
以下(前)

古墳に興味津々
まちかどネットワーク
小池 則子さん
(日乃出町)
以下(小)

富士市の

主な古墳マップ



市内約600基の古墳のうち、須津川、春山川沿いでは、3分の2（約400基）もの古墳が確認されています。

① 古墳の表面全体には、石が並べられていました。これを「葺石」と言います。理由は、盛った土が雨などで流れないようにするためと、白く輝かせて神々しさをあらわすためと思われます。

川の近くに古墳が多いのも、川原には石が多くて都合がよかったからでしょう。



② ほら、石の一部が見えていますよ



② 浅間古墳

③ とても眺めがいいですね！

④ 古墳は、権力者が自分の支配する地域を一望できるように、また、自分の力をアピールするために、人々が見上げる高台につくられました。スルガの国最大で最古の古墳です。



③ 大坂上古墳



円墳



⑤ 吉原工業高校の校庭を整地するときに発掘調査を行い、中からは多くの副葬品が出てきました。これは移築されたものです。

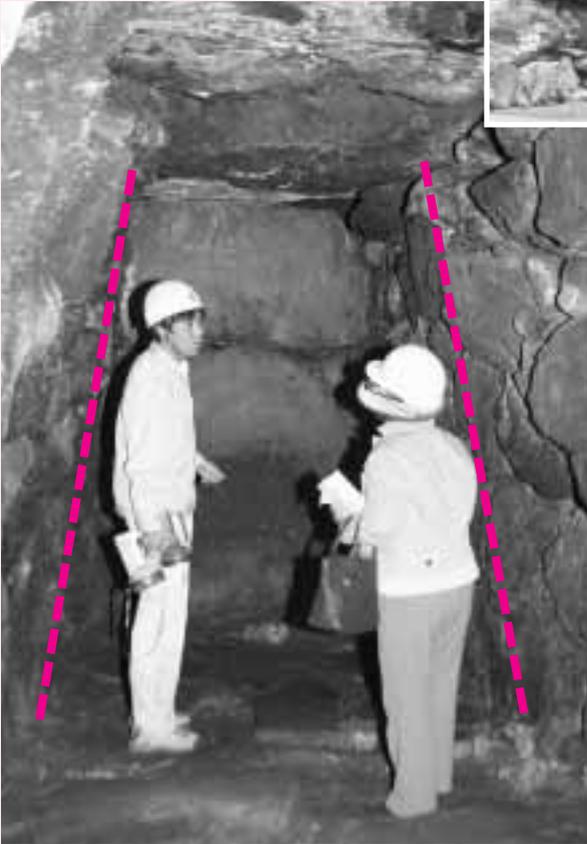


(国指定史跡)
前方後方墳
(全長約100m)

④前 さあ、中に入って
みましょう！



④ 実円寺西第一号墳
じつえんじ



④小 思ったより広い！
どうしてこの壁は垂直ではなくて斜め（台形）なのですか？

④前 いいところに気がつきましたね。この方法は「持ち送り」といって、お城の石垣のように、斜めに石を積み上げることで、重力を分散させているのです。昔の人の知恵ですね。この石室の中に、多くの副葬品と一緒に埋葬されていました。



（市指定史跡）
円墳

④前 庚申塚古墳や浅間古墳は、権力者1人のための墓でしたが、ここには、現在のように、家族が埋葬されていました。この石室は、富士山の溶岩れきを組んでつくられています。

④小 何て大きな石！

どうやって運んだのか、不思議ですね。

④前 恐らく、この原理を利用して、丸太などを並べた上を、転がしながら引っ張って運んだのでしょう。

市内の主な古墳



神谷

千人塚古墳（市指定史跡）円墳



船津

稻荷塚古墳（市指定史跡）円墳



中里

琴平古墳（県指定史跡）円墳



東柏原新田

山の神古墳（市指定史跡）前方後円墳



伝法

伊勢塚古墳（県指定史跡）円墳

古墳時代って？

弥生時代と奈良時代の間、3世紀中ごろ～8世紀初めごろを「古墳時代」と言います。このころ、近畿地方では、豪族と呼ばれる人たちが、大王（後の天皇）を中心に「大和政権」を築いていました。

古墳は、支配階級の人たちのお墓です。その支配勢力の広がりとともに、日本各地につくられるようになりました。

古墳時代のはじめは、豪族などの権力の象徴として古墳がつくられていましたが、やがて、ムラ（村）の長（おき）の人物までが、小さな古墳をつくるようになりました。副葬品も、鏡などの宝器から、土器や馬具などに変わりました。

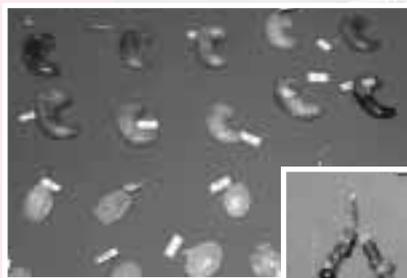


④ これは何ですか？
 ④ 副葬用につくられた、水筒のようなものです。中に、お酒でも入れたのかも知れませんが。

③ ここでは、遺跡から発掘したものを整理・研究しています。復元が完了したものは、博物館などに展示しています。これらの装飾品は、主に男性のものなのです。
 ③ 本当にきれいで、おしゃれですね！今でも十分通用しますよ。一つ欲しいくらい(笑)。



須恵器



まがたま 勾玉などの装飾品



見学を終えて…



古墳を通して、私たちの先祖が、どのように生活してきたのかを知ることができ、きょうは驚きと発見の連続でした。古代の人々を身近に感じ、とてもいとおしい気持ちになりました。
 私たちは、古代の人々が積み重ねてきた暮らしの上に生活しているのですから、これからも古墳をはじめ地域の遺跡を大切に守り、次の世代に残し伝えていかなければなりませんね。

東西の要素をあわせ持つ

富士市の古墳

富士市の古墳は、西日本・東日本両地方の古墳の要素を持っているので、研究対象としてもしるい地域です。また、古墳の質も量も豊かですから、調査研究は大変ですが、とてもやりがいがあります。

例えば、六〜七世紀の古墳のつくり方を調べることで、王が国を支配する時代が終わって、役所を持つ「郡」ができる過程をうかがい知ることが出来ます。現在の富士川から、長泉町のあたりまで広がっていたスルガの国のうち、西半分を富士郡が支配するようになったこと、また富士郡の役所が、現在の富士インターチェンジ付近にあったことなど、具体的なことまで推測できます。



富士市文化財審議会委員

植松 章八 さん

古墳が歴史を物語ってくれます

小さな発見が貴重な資料に

これまで、古墳での個々の発見が、なかなか地域の歴史の流れにまでは結びつきませんでした。しかし、ようやく、それらの個々の発見を結びつけ、歴史の流れを形づくっていく段階に入ってきました。古墳の形や出土品が歴史を物語り、今後、歴史を解釈していくために重要な資料となります。

もし皆さんのお宅に出土品らしき物があったり、市内で発見したりした場合などは、博物館にご連絡ください。地域の歴史研究がより密度の高いものとなっていくために、「小さな発見」にぜひご協力ください。

古墳などに関する問い合わせ

文化振興課 ☎55-2875 ☎53-8525
 市立博物館 ☎21-3380 ☎21-3398
 埋蔵文化財調査室 ☎22-2095 ☎22-2096